

本庁舎移転に関する市民説明会 志布志会場

日 時：平成 31 年 1 月 31 日（木） 午後 7 時 00～8 時 30 分

場 所：志布志支所 1 階会議室

出席者：下平市長、武石副市長、企画政策課（樺山課長、西補佐）、総務課（山田課長、河野危機管理監）、地域振興課（竹田課長）、建設課（豊倉推進監、富岡室長）

参加者： 62 名

【開 会】配布資料確認、日程の説明

【市長挨拶】下平市長あいさつ

【説 明】樺山課長

【質疑応答】

Q 1：今回、本庁舎移転基本方針の発表を聞いて驚いた。公約実現のため、本庁舎を移転するという内容だが、本当に市民のためになるのかと考えたところである。合併前の合併協議会での主な協議内容としては、新庁舎をどこに置くのか、新市の名称をどうするのが大きな議題として進められてきた。協議会で最終的に本庁舎を有明に置くことが決定され、これまで 13 年間に経過してきた。当時の合併協議会でも先ほど説明がなされたような志布志市の発展を十分踏まえたうえで、有明庁舎に決まった経緯がある。それから最も重きを置いて検討されたのは地域住民にとって一番公平な中心地はどこなのかということが求められ、その上で有明庁舎に決まったことは市長含め、出席している市役所職員もご承知のことと思う。当時の人口重心地は有明町野井倉の早馬というところであったため、最終的に現在の有明庁舎が本庁となった。志布志支所という話もあったが、駐車場が狭いことやアクセスが隘路のため不便であるとの理由で本庁を置くという議論にはならなかったということであった。当時の合併協議会の委員は見識高い方々で、まちの将来性や地域住民の利便性、そしてなるべく負担のかからない形での合併について慎重に審議していただいた。合併して 13 年が経過し、まちの現状は市街地の商店街が少なくなっているが、市街地の発展は市役所がどこにあるかで決まるものではないということは、日本中のどこのまちにおいても示されている。そのような理由で本庁を志布志支所に移せば市街地が賑やかになるということについては、認識が違うと思う。新しい市街地の中心地、産業の中心地は、徐々に西に移ってきている。そして、志布志港においては、懸念される南海トラフ地震の対策はどうなっているのかということである。そのことについて、まずもってお答えいただきたい。それから重要な問題として、移転費用はいくらかかるのかということである。方針が発表された時に移転費用の見積もりはされているのではないかと考える。そして、短期、中期、長期の計画で進めるとすれば、恐らく 100 億円程度はかかるのではないかと思う。その財源は合併特例債であるとか、これから財源を積み立てていくという計画であるが、その財源があれば、直接市民サービスにつながる部分に振り向けてほしい。そのことが大きな課題であると考えてるので、お答えいただければと思う。そして将来的に全課を一箇所に集約することで、市役所としての機能を

発揮するという考えのようであるが、短期・中期・長期計画の非効率的な形での行政推進を何故行うのか大いに疑問に思う。新庁舎を建設するというのであれば、短期・中期をやめて、長期計画の内容について、場所はどこがいいのか、建設費はいくらぐらいかかるのか、市民の意見を聞きながら、進めていくのが本来のやり方ではないかと思う。

- A 1：合併協議会では2つの委員会で新市の名称と庁舎を置く場所について協議がなされた。庁舎の位置については、当時は大崎町も入っていたため、その時点での中心として、現在の位置に決まった経緯がある。市街地の活性化について、私は将来のビジョンをしっかりと公約に示した。庁舎の位置については、地方自治法第4条に国県の官公署との関係、もう一つは交通アクセスが充実していることが謳われている。私が何故、本庁舎を移転するのかというと、合併する前の税収は、志布志町が約21億、有明町は約8億、松山町は約2億7千万円であった。これが今ほとんど変わっていない。何が原因かということ、まちが活性化されていないということである。ご承知のとおり港が、道路が、このように同時に開発が進むまちは他にはほとんどない。これをどうやって活かしていくのがトップの責任である。そのことについては、しっかりと公約に掲げ、「行ってみたいまち、住んでみたいまち、住んでよかったまち」にするために、子育て支援の問題、あるいは緊急医療体制の問題、あるいは障がい者が安全、安心して住めるまちづくりをどうすればいいのか、その他にも子ども達の教育問題など沢山ある。学校の空調関係については、30年度の補正で設計予算を既に計上し、31年度に実施する計画であったが、その後、国が全国的な支援を行うこととなった。本市は早めに取り組んだことで、他よりも早く実施が見込めることとなっている。このように前もって行政が何をしていけばいいのか、誰のために何をすればいいのかをしっかりと打ち出してやるべきだと考える。そして、5年以内に本庁全体の移転としているが、例えば福祉課、保健課の統合や職員の定員適正化計画による取組として、グループ制の導入を検討している。現在は係制をグループ制として行っており、来客時に担当者がいないということがないように、職員があらゆる事業に関わりを持ち、いつでも市民に対応できる体制づくりをしていこうという趣旨で行っている。いずれは、職員数を減らさなければならず、国、県の事業も市町村に移譲される状況にしっかりと対応するためにはグループ制を導入して、「担当が不在のため、分かりません」ということがないようにいつでも市民サービスが提供できる体制づくりをしていきたいと考える。そして、これまで100億円近くが費やされてきた志布志港の整備については、先人達が、発展する志布志港を夢見ながら、反対する側に説得するなど一生懸命取り組んできたおかげで今の現状がある。これは本当に感謝しかない。次の世代のためにこれを活かしたまちづくりをしていきたい。先日開催されたまちづくり委員会の意見の中で、ホテル業に携わる方が、本庁舎移転の動きがあるという話だけで人の動きが変わってきているという話をされた。これまで7～8割の稼働率が現在は100%の稼働率となっているホテルもある。それほど、市民や事業者への影響が大きいということである。現在有明本庁には年間5,000～6,000人が訪れる。それだけ人の動きがあるということである。行政と港、行政と商店街など、行政との関わりがより身近にあることが、より発展する大きな要因であると考え。トップはしっかりとしたビジョンを持ち、何をするのかを示すためにも短期・中

期・長期計画を掲げ、短期は6月議会で条例等の提案をし、中期は5年以内を目途としているが、漁協など関わりのある方々への思いに少しでも早く応えることが行政の在り方であると考えているので、早めに行うようにしたいと考えている。個人や団体で何年もかかることが、行政が行うと1年でできる。以前、職員時代にリサイクルの取組も1年で13品目の分別を行うことができた。公共下水道も廃止したが、一人の職員でこのようなことができるが、トップはそれ以上にできる。私は今その立場になっているが、ならせていただいた市民に感謝している。合併して志布志市になった訳であるので、この志布志市をどう発展させるかを皆さんと議論していくことが必要。しかしトップはしっかりしたビジョンを持ち方向性を示さない限り前へ進まない。トップが変われば職員が変わる、職員が変われば住民が変わる、住民が変われば地域が変わる、地域が変われば志布志市が変わる、このように訴えてきた。職員も一生懸命である。自分に与えられた仕事に対して夜遅くまで頑張っている。その能力を引き出すのも私の大きな責任である。公約に掲げる本庁舎移転についてもしっかりと方向性を持ち提案したところである。

Q 2 : 先ほどの質問で人口の重心地は有明町だと言われたが、固定資産税も含め、まちの中心は港を中心としたまちであると考え。上町商店街についても、これまで何も整備がなされなかった。今後は早急に取り組んでいただき、庁舎建設も100億円かかるとは思っていない。志布志市は港を中心に、そして活性化が期待できる場所でまちづくりをしていけば、有明、松山も発展していくと考える。そのような理由で早急に本庁舎を移転していただきたいと思っている。

Q 3 : 私は、頻繁に市役所を訪ねるが、職員の対応は以前と比べて、すごく良くなってきている。ただ仕事に対するレベルに達していない職員も見受けられる。私は以前、志布志駅を訪れた人から、何故山手の方に市役所があるのかと尋ねられたことがある。誰がトップになるかというよりも、現在の良い状況を少しずつ進めて行って、活気があった頃の志布志になって欲しいと思っている。ホテルも新しく建設されるということだが、その反面、既存のホテルの経営も心配になってくる。長期的な考えも必要だが、今ある課題に対して対処が必要と考える。

A 3 : ホテルについては、それぞれの形態が違うので、そこまでの影響はないと思っている。ホテルもだいぶ足りない状況である。先を見越して新たにホテルを建設する動きもある。行政と違い、民間の方が先を見る目が違う。民間の考え方をしっかりと聞いて、行政ができることに取り組んでいきたい。

Q 4 : 志布志支所は耐震工事がなされているのか。また築何年か。

A 4 : 竣工が昭和56年で耐震診断はクリアしている。

Q 5 : 2階部分の飛び出している建物については、振動幅が違う筈であるが、専門機関による診断結果ということか。

A 5 : 5階建てと2階建てに分けて、構造計算の専門家による診断を行っている。

Q 6 : 今年の6月議会で議会の議決を受けないとスタートできないと思うが、志布志と松山地域の議員数を足しても条件である3分の2に達しないので、有明地域の議員へはしっかり説明

して、可決されるようお願いしたい。

A 6 : 6月議会に提案し、3分の2の承認が必要であるので、丁寧に説明して理解を得られるようお願いしていきたい。

Q 7 : 先ほどの建設費については、100億円ではなく、これだけかかりますと示してもらえれば済むことである。商店街の活性化やグループ制などの説明があったが、このことは別に本庁舎が有明にあってもできることではないのか。志布志港の整備が進み、道路網も整備されれば広域的になり、木材輸出の促進が進む。また国際バルク戦略港湾についても南九州の飼料穀物の供給基地となることで、道路整備の必要性は益々高くなる。そのことについても本庁が志布志支所になくても可能であることを理解してもらいたい。平成22年に口蹄疫が発生して移動禁止の規制がなされた時、商工会の方々も初めてこの地域は農業の発展があってまちが成り立っているということに気づいたのだと思う。志布志港の整備も同様のことで、農業の振興があって、志布志港が発展につながっていくということで、関連事業者が臨海工業団地に進出している訳である。これも本庁を移転しなくてもできる内容である。そして、合併時、約180億円であった予算が、現在、約260億円になっており、主な要因の一つは、ふるさと納税である。ふるさと納税の返礼品の多いのはうなぎやお茶、焼酎、牛肉など、農産物が製品化され、返礼品として出されている。このようなことを踏まえれば、志布志支所を本庁としなくてもできる内容である。そのことについてお答えいただきたい。

A 7 : 以前、地方行財政に詳しい鹿児島大学の教授に本庁舎が有明庁舎にあった場合と志布志支所にあった場合の様々なデータ提供を依頼したことがあったが、どこの自治体も少子高齢化が進む中で、このまま本庁を有明に置いたままでは、まちの疲弊は早くなる、市街地がしっかり形成されている場所に本庁舎はあるべきだと言われた。私は専門家が言わなくても当然、志布志支所に本庁を移転して、人と人の交流、ヒト・モノ・カネ・情報の交流による連携がまちの活性化になると思っている。移転費用については、庁舎建設については30年以上先のことであるので、まだ積算はしていない。庁舎の改修費は約1千万円であるが、議場等の改修については現在積算中である。空調については、移転に関係なく更新が必要となっており、本庁舎移転の経費と区別して示していきたい。無駄のない予算の執行を心がけ、内訳について市民へは説明していきたい。中期計画については5年としているが、それよりも前に持っていきたい考えである。市民環境課の業務を志布志支所では市民税務課が行っているが、将来的なワンストップにも十分対応できると考えている。福祉課と保健課が統合できれば、これも不可能ではないと思っている。できるだけ経費をかけずに効率の良いお金の使い方をして、志布志市の活性化を図っていこうという考え方である。有明、松山、志布志ということではなく、「志布志市」になった訳であるので、みんなで一緒にどうしたら活性化できるのか、次の世代のためにいつ、誰が、何をしないといけないのかを考えていかないといけない。先ほども述べたが、合併して13年経つが、あまり変わっていない。上町通りもお店がなくなっている。東京や大阪、名古屋などを見ると良く分かると思うが、人通りの多さでまちが成り立っている。いつでも人が多いと利用できる。そうなるためには人が多く行き来することが重要だと考える。民間は利益を追求して動くが、行政というものはあまり先

を見越しすぎると前に進まない。「市役所は市内最大のサービス企業」という職員の意識改革をすることで、市民に対しては真摯な態度で接し、市民と一緒にまちづくりをしていこうという考えである。

Q 8：耐震問題がクリアできれば、移転費用はほとんどかからないのではと思っている。先ほど市長から色々と説明があったが、今鹿児島市は鹿児島港を中心としてアクセスを整備している。志布志も志布志港を中心として整備する。そして、これからの志布志は観光で外貨を稼いでいくべきと思う。これまでの首長の中で、人口を増やすという首長はいなかった。下平市長は4万人を目標に、有明だけでなく、松山だけでなく、3町を総合的に開発しながら人口を増やしていく、経済的な力をつけるということなので、港からのアクセスも進めながら志布志市を盛り立てて、頑張っていたきたい。

Q 9：市長の意見に感激している。本庁舎をお金をかけて移転するという話ではなく、目先を変え、どこにいたらまち全体が見えるか、志布志も有明も松山もみんなまちである。ではどこにいたら一番人が喜ぶか、みんな沢山いるところは人が動く、過疎化のところにも目を向けないといけないが、ここ何年かで一番どこに目を向けたか、どこが変わって、どこが変わってないのか、人口減少でどこも伸びているところはない中で、志布志が今道路や港ができ、外から人を呼び込むためにどこに庁舎を置けば、企業誘致がしやすいのかを考えないと田舎のまちは生き残れない。ふるさと納税も外の人のおかげで成り立っている。新しい力を入れないと自分達が頑張っても難しい時代になっている。港も材木だけに頼らず農産物をどんどん出していかないといけない。人と人を結びつける場所があれば、立派な庁舎はいらない。そういう意味での期待があったから、市長が変わった。トップは平等に目を向けていかないとまちは喜ばない。

Q 10：中期計画に各支所の活用も整理するとあるが、有明支所は建物と土地にかなりの余裕があるが、大崎町の有明高校跡地のような利活用についても今後検討してほしい。

A 10：活用については考えているので、その件については待っていただきたい。

Q 11：以前、教育長に志布志市に夜間の高校や大学を誘致できないかという話もしたが、学ぶ場の一つが志布志市にあってもいいのではと考える。

Q 12：先ほど市長は「市役所は市内最大のサービス企業」という話をされたが、税金を納める立場で話をしたい。高速道路網の全線開通はいつ頃なのか。また、そのことによりどれだけの経済効果があるのか。それから本庁が志布志支所に移転することでどれぐらいの経済効果が見込めるのか。数字的なものがあると市民も分かりやすいと思う。最後に、現在の志布志支所は上から降りてくる道路や駐車場が狭いという問題がある。加えて南海トラフの地震等を考慮すると、思い切って高台へ移転するような長期ビジョンでも示せないか。

A 12：市役所は市民がいるから成り立っている。職員はそこで働かせていただいているという思いを持って、市民の要求に対応するということが肝と考え、顧客満足度志向を提唱している。東九州自動車道は鹿屋串良ジャンクションから志布志までは2020年度までは供用開始となる。都城志布志道路は明確には分かっておらず、公表もされていないが、宮崎方面は2020年頃ではないかという状況である。国や県にも要望活動にも行っているが、宮崎の方が早い

ようである。できるだけ早く供用開始ができるようお願いしている。経済効果については、先ほど述べましたように、あらゆる試算に基づき算出しないと簡単には出せないが、まちがしっかりと形成されたところに本庁舎がないと疲弊がより早くなるということを言われたのは事実である。駐車場の問題等については、現在、支所駐車場にある職員駐車場は全て文化会館周辺に持っていく考えである。そしてそこへ上がる方法については、議会の承認も必要だが、自分なりの考えがある。できるだけ市民が安心、安全に暮らせるようにしたい。南海トラフの話もあったが、志布志支所の標高は 12 メートルである。想定の高波は 7 メートルとされているが、市民の生命・財産を守ることが行政の責任であるので、しっかりと対応していきたい。